

JAPAN ICOMOS / INFORMATION

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE 日本イコモス国内委員会

7期—1号



2007.03.13

CONTENTS♣

はじめに／前野まさる 01

From the President / Masaru MAENO

2006年次第4回拡大理事会報告(12/9)／赤坂 信 02

Reports on the 4th Meeting of the Executive Board, 2006

Makoto AKASAKA

日本イコモス国内委員会 2006年次総会記録(12/9)／赤坂 信 05

General Meeting of Japan ICOMOS, 2006

Makoto AKASAKA

研究会：「日本における文化遺産のバッファゾーン」に関する
報告とディスカッション

報告者：益田兼房 カロリン・フンク 梅津章子 17

Reports and Discussion on the Theme “Buffer zone of
Cultural Heritage in Japan”

Presenter: Kanefusa MASUDA, Carolin Funck, Akiko UMEZU

2007年臨時理事会報告(1/27)／赤坂 信 18

Reports on the extra Meeting of the Executive Board

Makoto AKASAKA

ISC その他国際研究集会報告 その他／伊藤延男 岡田保良 花里利一 20

News and Memorandum of ISC and the other

Nobuo ITO, Yasuyoshi OKADA, Toshikazu HANAZATO

事務局日誌 22

Diary

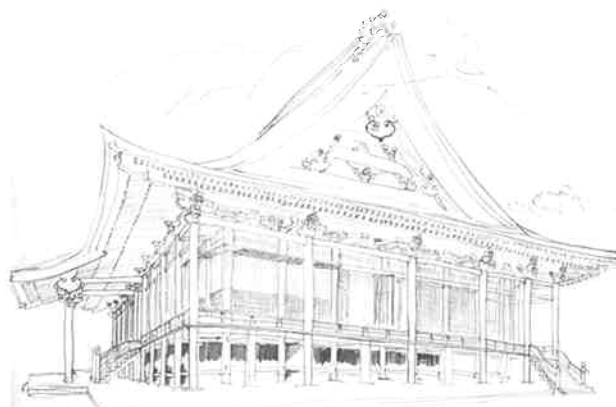
はじめに
前野まさる



去る12月の日本イコモス国内委員会総会で第7期の委員長に推薦されました。第6期の任期後半は、鞆の浦港保存問題、原爆ドームバッファゾーン内の高層建築問題などで皆さんのお力添えを頂き、誠にありがとうございました。現代都市内にある世界遺産とバッファゾーン内の都市開発問題は世界中で起こっており、対策を検討しなければならない問題です。

世界遺産の観光による遺産周辺の環境変化、自動車乗り入れによる危機的状況も世界中で起きており、日本も他人ごとではありません。本年も皆様のお力添えを頂かねばなりませんので、よろしくお願いいたします。

日本イコモス国内委員会の会員は昨年末で300人を越え、会員皆様のお力を頂くためにも専門別の協議・研究会の機会を持てるよう企画したいとも考えていますので、よろしくお願いいたします。



イラスト／上野邦一

私は、2007年3月に大学を退職することになります。この退職は、同時に人生の一区切りと考えて、「描いて学ぶ」(連合出版)を発刊しました。このことを頭において、昨年10月24日から11月11日の3週間、奈良女子大学記念館で、スケッチの展示会を開催し、この30年間に描いた建物・町・遺跡など約70点と、版画30点ばかりを展示しました。いわば、退職記念展示会です。この展示会にあわせて刊行したのが『描いて学ぶ』です。スケッチ約170点を納めました。170点のうち、前半分は日本の社寺、後半分の大半は、中国・東南アジアの建物・町・遺跡です。最後の15点ほどは、欧米の町です。

スケッチをするということが具体的にどういう効果があるのかと問われると、正直言って「分からない。なにか効果があるのか、なにか役に立ったか、自覚はありません」としか答えようがありません。気晴らしと言えば気晴らしでしょう。本にも書いたように、様々な競技をする人が、繰返し練習するように、多くの職人が腕で体で蓄積していくように、頭や腕に蓄積して行ったのだろう、感性として結実しているのだろう、と思っています。イコモス会員の皆さんにもご覧いただければ幸いです。